

福島県中学校長会 広報

・会長「就任の挨拶」……………	1
・令和4年度第72回福島県中学校長会総会…	2
・組織及び役員一覧……………	2
・学校教育の今日的課題	
「運動部活動の地域移行」……………	3
・令和4年度中学校長会の活動と運営…	4～6
・第73回全日本中学校長会WEB総会報告…	6
・支会情報と特色ある経営	
(伊達・石川・南会津・いわき)……………	7～10
・新会員紹介 新会員の声……………	11
・随想「想定外」を総力を結集して乗り越えていきましょう…	12



就任の挨拶

福島県中学校長会会長 渡部 光毅
(福島市立福島第三中学校)

4月20日に開催された総会において、今年度の会長に選出されました、福島市立福島第三中学校の渡部光毅と申します。力不足では

ありますが、誠心誠意務めさせていただきますので、本年度一年間、ご支援を賜りますようお願いいたします。

はじめに、佐藤浩哉前会長様をはじめ本年3月末をもってご勇退されました校長先生方のご功績に敬意を表しますとともに、長年にわたるご指導に対しまして、深く感謝申し上げます。令和4年度も、先輩方が残された実績をもとに県中学校長会としての活動を推進して参ります。

特に令和4年度は、10月7日に、第50回福島県中学校長会研究協議会県北大会が伊達市立梁川中学校を会場に開催されます。コロナ禍により2年前の会津大会が中止になりましたが、本会は、本県中学校教育の充実・発展に寄与する重要な協議会であり、実に4年ぶりの開催となります。会の準備や運営を担当される伊達支会をはじめ県北地区各支会様には心より感謝申し上げます。

また、東日本大震災及び原発事故から11年が経過しましたが、本県では「学校が復興の拠点」とあるという共通認識のもとに教育環境を整えたことで、笑顔で活躍する生徒の姿を様々な場面で見ることができるようになりました。しかし、現在も避難先で再開している学校もあり、本県の復興は未だ途上にあります。今年度、第二期復興・創生期間の2年目を迎えるにあたり、県中学校長会では、特に、震災時の記憶の風化を防ぐ取組を強化したいと考えています。

11年という年月の経過によって、震災時の記憶が曖昧であると答えるのは、子どもたちだけでなく若い教員にもその傾向が見られます。教える立場である教員が勤務校において防災教育や放射線教育を正しく指導できるようになるためには、自らの震災当時の記憶を鮮明にする必要があります。そのために県中学校長会では、中核市を含めた新採用教員等の研修に、本県の震災遺構や伝承

施設の訪問を悉皆研修とするよう要望しています。今年度の活動においても、重点事項として位置付け、9月初旬に予定されている県議会諸会派等への要望活動に臨みたいと思います。

ところで、コロナ禍という言葉が使われるようになり3年目を迎えましたが、今も感染者数に一喜一憂する日々が続いています。各校では、今年度も教育活動を実施する上で難しい判断を迫られているのではないのでしょうか。私はコロナ禍において迷いが生じたとき、よく全日中新教育ビジョン第四章に目を通します。ここには新任校長に向けたメッセージが書かれていますが、冒頭に示された『しなやかでたくましい校長』という言葉の意味を確認しながら判断するようにしています。

校長の「しなやかさ」とは、豊かな人間性に裏付けられた包容力、適切かつ柔軟に物事にあたることのできる対応力。校長の「たくましさ」とは、豊富な経験と知見、教育者として確固たる信念に基づく判断力、人を動かす表現力、社会の変化をいち早く的確にとらえ、進むべき道を見いだすことのできる先見性。

このメッセージを読むと、しなやかでたくましい校長とは、新任者に限らず、私たち全ての校長に求められる資質や能力ではないかと思うのです。校長は、紛れもなく学校の経営者たる立場にあります。様々な困難が目の前にある中、学校の再開、防災教育、放射線教育の推進など本県が抱える課題に加え、コロナ禍における学びの保障や働き方改革の推進、部活動の地域移行など山積する教育課題に対し、校長自らがリーダーシップを発揮しなくてはなりません。しかしながら、校長単独では限界があり、教育委員会等の関係機関も含め、県中学校長会各支会との連携と情報交換の強化がより一層必要になると考えます。

終わりにになりますが、子どもたちが郷土への誇りと自信、将来への「夢」と「志」をもち、本県の復興と発展を担う人材として成長するために、子どもたちに「生き抜く力」と「未来を切り拓く力」を育めるよう、会員の皆様のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。就任の挨拶とします。

令和4年度 第72回福島県中学校長会総会

4月20日(水)パルセいいざかにおいて、第1回福島県中学校長会理事会、第72回福島県中学校長会総会が開催されました。

総会では、目黒 満福島県中学校長会会長代行のあいさつの後、議事に入り、令和3年度会務・事業及び決算報告が上程どおり承認されました。続く令和4年度の役員選出では、会長、副会長、監事の8名が満場一致で決定され、渡部光毅氏(福島市立福島第三中学校)が新会長に選出されました。

新役員を代表して、新会長から就任のあいさつがありました。職責の重さを自覚した強い決意とともに、未だ終息の見えないコロナ禍において、教育活動をどのように正常化させるか、また、「働き方改革」「部活動の地域移行」「教員不足」など、各中学校が抱える課題について、互いに情報と苦労を分かち合い、課題解決に向けて支援していきたいと述べられました。さらには、新会長より、事務局長、各専門部会長、庶務、会計の委嘱が行われ、新体制がスタートしました。

その後、令和4年度の事業計画及び予算案が審議され原案どおり承認されました。

総会後、例年開催している小・中合同開会式を実施する予定でしたが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、残念ながら中止となりました。

令和4年度も各中学校では、新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの学校運営となります。会員213名が一つとなり、本県の中学校教育発展のため、今こそ会員が一致協力して、この困難な状況を打開していくことが肝要であり、本会の活動がよりいっそう重要になると思います。



【第1回福島県中学校長会理事会】

令和4年度 組織及び役員一覧

※ 理事が2名いる支会(福島・郡山・いわき)の会長：◎印
※ 常任理事：○印

役 職 名		氏 名	勤 務 校
会 長		渡 部 光 毅	福 島 三
副 会 長	行 財 政	阿 部 央	県 北
	研 究	藤 田 信 一	若 松 四
	進 路 指 導	早 川 良 一	檜 葉
	生 徒 指 導	芳 賀 俊 幸	郡 山 六
監 事		安 田 良 一	郡 山 三
		横 山 泰 久	猪 苗 代
		高 橋 知 弘	鹿 島
理 事	福 島	◎○目 黒 満	信 陵
	福 島	渡 部 光 毅	福 島 三
	伊 達	阿 部 央	県 北
	安 達	原 田 真 一	二本松一
	郡 山	◎芳 賀 俊 幸	郡 山 六
	郡 山	早 崎 保 夫	郡 山 二
	岩 瀬	八木沼 孝 夫	須賀川一
	石 川	富 岡 信	石 川
	田 村	助 川 徹	船 引
	東西しらかわ	○深 谷 昇 司	棚 倉
	北 会 津	藤 田 信 一	若 松 四
	耶 麻	押 部 秀 隆	喜多方二
	両 沼	坂 口 伸	高 田
	南 会 津	○我 妻 雄比古	下 郷
	相 馬	松 本 一 宏	中 村 一
	双 葉	早 川 良 一	檜 葉
事	い わ き	◎○塚 本 英 樹	平 一
	い わ き	鯨 岡 寛 泰	小 名 浜 一

【事務局】

事 務 局	事 務 局 長	福 地 裕 之	福 島 四
	行 財 政 部 会 長	福 地 淳 一	清 水
	研 究 部 会 長	嶋 原 俊 洋	渡 利
	進 路 指 導 部 会 長	千 葉 英 一	北 信
	生 徒 指 導 部 会 長	中 村 徹	蓬 萊
	広 報 部 会 長	井 上 明 浩	ふくしま支援
	庶 務	板 橋 竜 男	福 島 一
	会 計	神 尾 孝 弘	山 木 屋

学校教育の今日的課題



—運動部活動の地域移行—

福島県中学校長会副会長 藤田 信一
(会津若松市立第四中学校)

5月に行われた第73回全日本中学校長会Web総会に参加させていただき、文部科学省の行政説明を聴く機会に恵まれました(資料は全日本中学校長会のホームページで見ることができます)。

まず、「最近の初等中等教育の動向」と題した講演では8つの内容が取り上げられ、さらに各課担当者から具体的事項の説明がなされました。学校経営に関わる喫緊の課題は少なくないことを再認識するとともに、学校経営の視点から先を見通して諸課題を理解し、準備や具体的な取組を進める必要性を強く感じました。

それらの中から運動部活動の地域移行について紹介します。スポーツ庁地域スポーツ課から、運動部活動改革のこれまでの経緯・取組を確認した上で、学校の働き方改革を踏まえた部活動改革の概要が説明されました。その中で、「生徒にとって望ましい持続可能な部活動と教師の負担軽減の両立を実現」できる改革が必要であるとし、改革の方向性として次の3点があげられました。

- 1 部活動は必ずしも教師が担う必要がない業務であることを踏まえ、休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築
- 2 部活動の指導を希望する教師は、引き続き休日に指導を行うことができるしくみを構築
- 3 生徒の活動機会を確保するため、休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境を整備

さらに具体的な方策として次の2点の説明がありました。

1 休日の部活動の段階的な地域移行(令和5年度以降、段階的に実施)

- ・ 休日の指導や大会への引率を担う地域人材の確保
- ・ 保護者による費用負担、地方自治体による減免措置等と国による支援

- ・ 拠点校(地域)における実践研究の推進とその成果の全国展開

2 合理的で効率的な部活動の推進

- ・ 合同部活動の推進
- ・ ICT活用の推進
- ・ 地方大会の在り方の整理

来年度から段階的に実施される休日の部活動の地域移行について、各校での見通しや準備等はいかがでしょうか。学校ごとの状況は多様であり、人材の確保をはじめとした受け皿づくりは容易ではないと思われます。

会津若松市においては、令和元年度から、生徒一人一人に応じた技術力の向上、集団での練習により競技本来の楽しさを味わうこと等を目指し、生徒を地域とともに育てていく体制を構築するために「週末合同練習会」を実施しています。さらに、令和3年度から国の地域運動部活動推進事業により、剣道競技において週末の部活動の地域移行の諸課題の整理と解決策の構築に向けた実践研究を進めています。また、本事業において、現行の合同部活動形式以外に、新たに学校単位で地域団体が運営する地域部活動モデルについても取組がスタートします(北会津中学校・きたあいづスポーツクラブ)。加えて、今年度、市内すべての学校運営協議会において、休日の部活動の地域移行についての協議を開始します。

保護者の費用負担や大会の在り方など、今後、解決しなければならない課題も山積しています。自治体や各校の実情が異なるだけに、拠点校(地域)における実践研究の成果が必ずしも自校に適用できるとは限りません。校長として自校や地域の状況を踏まえ、地域移行への準備や具体的な取組を進めていくことが求められています。校長会での情報交換や関係機関・団体との連携がこれまで以上に重要になってきています。

令和4年度**「県中学校長会の活動と運営」**

福島県中学校長会事務局長 福地 裕之
(福島市立福島第四中学校)

激動する国際社会においては、持続可能な社会を構築するための動きが進行しており、教育界も様々な教育改革、そして、「社会に開かれた教育課程」及び、「主体的・対話的で深い学び」の実現、「カリキュラム・マネジメント」の確立が求められています。また、GIGAスクール構想により、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」などの推進も求められています。

そのため、私たちは学校教育の課題を踏まえ、子供たちの「社会を生き抜く力」と「よりよい社会を形成する力」を育むとともに、Society5.0時代の到来を見据えた人材育成など、学校からの教育改革を推進していかなければなりません。併せて、「学校における働き方改革」の取組や新型コロナウイルス感染症が長期化することが見込まれることから、教育活動を継続していくために必要な感染症対策と、学びの保障を両立していくことが大切です。さらに、東日本大震災の風化防止に努めるとともに、防災教育・安全教育の更なる充実を図っていくことです。

「学校は、復興のシンボルであり、復興の活用源である」こと、そして、「学校は、命と健康が輝く場所である」ことを肝に銘じ、学校経営の最高責任者としてのリーダーシップを発揮しながら、地域の特質を踏まえた活力に満ちた学校経営に努め、県民の期待に応えていかなければなりません。令和2年5月に策定された「全日中新教育ビジョン 学校からの教育改革」の理念と「10の提言」を受け、今後とも私たちの英知を結集して、推進していきたいと考えています。

「全日中新教育ビジョン 学校からの教育改革」は、全国の公立中学校において、学校経営方針等の策定や教育活動を計画・実施する際に、その指針となるために策定されました。

「10の提言」は以下のとおりです。

提言1 「確かな学力」

提言2 「道徳教育」

提言3 「キャリア教育」

提言4 「体験活動」

提言5 「スポーツ教育・芸術教育」

提言6 「健康教育・安全教育」

提言7 「社会に開かれた教育課程」

提言8 「いじめ防止」

提言9 「働き方改革」

提言10 「連携・協働」

本県中学校長会の活動においては、4月の県小中合同開会式を中止としましたが、第1回理事会と第72回福島県中学校長会総会は開催し、滞りなく議事等の承認を得たところでした。

第50回福島県中学校長会研究協議会県北(伊達)大会は、10月7日(金)に実施されます。研究主題「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育」を受けて、オンラインと現地参集によるハイブリッド開催を予定しています。新型コロナウイルス感染拡大のリスク軽減を図るとともに、簡素化と実質的で実効性のある大会を目指しており、令和5年度の東北中学校長会研究協議会のプレ大会として、運営のノウハウを学ぶ場にもしたいと考えています。また、県内の中学校長全員が自ら主体的に参加することを通して、福島県中学教育の充実・発展を期するものです。講演会では、伊達市教育委員会教育長・菅野善昌氏を招聘し、「新たな時代を切り拓く教育(仮)」についてご講演いただきます。研究協議会では、8つの小主題ごとに2つの支会が発表し、協議を深めていきます。校長としての資質の向上と学校経営の改善に資する実り多い機会となることを期待しています。

本年度も各部会での活動や各種調査を通して本県教育の充実・振興に向けた課題を明確にし、教育行政をはじめ各種団体、関係機関等への要望など様々な働きかけを行います。このような活動の成果を上げるためにも、今後とも、本会員相互の連携強化を図るとともに、県小学校長会や高等学校長協会、その他関係諸団体・機関との連携にも努めながら諸課題の解決を目指していきたいと考えています。会員の皆様の深いご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

専門部会活動の概要

● 行財政部会 ●

県小・中学校長会の活動方針を踏まえ、教育行政上の課題を解決するために、各関係機関等との連携を密にしながら組織的・継続的な対策活動を推進します。東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故から11年が経過しましたが、学校現場は未だ課題を抱えています。さらに新型コロナウイルス感染症対策も加わり早3年、課題を把握しながら課題解決を行うため、行財政に関する調査Ⅰ、Ⅲ、特別調査を継続して実施します。

1 活動の重点

- 多様な教育活動に対応するための教育条件の整備・充実
- 教職員の待遇改善と福利厚生の上向
- 当面する重要課題の調査研究と課題解決

2 調査研究活動

- (1) 令和4年度「教職員人事の反省」
- (2) 調査Ⅰ：教職員配置等に関する調査
- (3) 調査Ⅲ：教育施策の実施状況に関する調査
- (4) 特別調査：大震災・原子力災害や感染症の影響に関する調査

以上の調査結果を集計・分析し、課題を明確にして要望活動や教育懇談会、各支会の活動、学校経営に活用できる資料とします。

3 要望活動

横山貴英県小学校長会会長、渡部光毅県中学校長会会長を中心に要望団を結成し、9月に要望活動を行います。福島県人事委員会、福島県議会議員各会派等への要望活動を予定しています。

4 教育懇談会

福島県教育庁関係者との懇談会を8月17日(水)に予定しています。行財政に関する調査をもとに行政へ働きかけ、県の教育行政上の説明を受け、課題解決にあたります。

(行財政部会長 福地 淳一)

● 研究部会 ●

コロナ禍3年目を迎え、まだまだ課題山積の中、校長自らがリーダーシップを発揮し、諸問題にあたられていることに敬意を表します。

さて、今年度の研究にあたっては次の点を確認の上、各支会での研究推進をお願いします。

1 共通理解に基づく共同研究の推進

今年度は、3年継続研究の初年度となります。昨年度末に作成した「研究の手引き」に基づき、8小主題について各支会毎に共同研究を推進します。その際、学校経営における新型コロナウイルス感染症対策の視点や校長としての具体的な対応等も踏まえた研究実践をまとめることとします。

2 研究集録の編集、刊行

今年度は県研究協議会県北(伊達)大会が開催されます。各支会から発表された研究の成果と課題を盛り込んだ内容を研究集録として年度

末に刊行します。(来年度の県研究協議会は東北地区中を兼ねた会津大会です)

3 全日中、東北地区中と連携した研究の深化

今年度の東北地区中学校長会研究協議会宮城大会はハイブリッド開催、全日本中学校長会研究協議会北海道大会はオンライン開催で調整されています。刊行される大会誌等を通じて他都道府県の研究推進に係る情報等を収集し、各支会で活用していきます。

4 原発事故に関わり、学校教育が向き合った課題、対応等の記録の累積と発信

震災後12年目のステージを迎える今年度も、研究集録の中に「ふくしまの今」～双葉支会の現状～を掲載し記録の累積を行うとともに、本県のかかえる課題等を全会員で共有します。さらに、前年度に引き続き、福島県ならではの放射線教育の現状についても掲載し、発信します。

(研究部会長 鳴原 俊洋)

● 進路指導部会 ●

1 「社会を生き抜く力」を育成するキャリア教育の視点にたった進路指導の積極的な推進

- (1) 進路指導体制の改善・充実
 - ・進路指導の全体計画と校内体制の改善
 - ・学習指導要領の趣旨を反映させた進路指導の充実
- (2) 適正な進路指導推進のための資料収集、整備活用の工夫
 - ・情報の収集、整理、活用と進路相談の充実
 - ・特別支援学級等における進路指導の充実を図るための資料収集と実態把握

2 高等学校入学者選抜方法の改善に向けた高等学校や関係機関との連携

- (1) 高等学校との連携
 - ・福島県高等学校長協会、福島県私立高等学校協会との話し合い活動の推進
- (2) 高等学校入学者選抜方法の改善、提言活動の推進
 - ・県立高等学校入学者選抜事務調整会議での要望、意見等の資料作成
 - ・入学者選抜の方法・内容に関する資料収集と資料提供の推進

3 適正な進路指導充実のための諸調査の実施と資料提供

- (1) 進路指導に関する諸問題の把握と資料提供
 - ・令和3年度末進路指導に関する調査の分析と連携のための資料提供
 - ・令和4年度末進路指導に関する調査
 - ・県下一円の進路動向調査の有効な活用
- (2) 学級活動の時間の充実のための副読本編集
 - ・「中学生活と進路(県版)」の編集と活用
- (3) 就職指導、専修学校・各種学校等の選択指導のための指導助言活動の推進
 - ・就職情報の収集と関係機関との連携強化

(進路指導部会長 千葉 英一)

● 生徒指導部会 ●

本県中学校長会として、生徒指導の充実を図るための基盤づくりを強化するとともに、自己指導能力や規範意識を高める指導に努めます。特に、東日本大震災及び原子力発電所事故、コロナ禍に起因する生徒指導上の課題、発達障がいのある生徒への対応やインターネット利用の仕方等、今日的課題に対応しながら、生徒の心の問題や安全・安心に配慮した対策を講じます。

そのための組織の強化として、積極的に関係機関との連携を図ります。特に、各校種との連携、情報共有を重視します。

1 自己指導能力の育成と規範意識の向上

- ・自己決定の場や自己存在感を与える教育活動の充実と共感的な人間関係の形成
- ・共通理解・実践に基づく一貫性ある学習・生活習慣づくりの推進と協同体制による指導

2 震災、原子力発電所事故、コロナ禍にかかわる課題と当面する諸課題の把握、その解決や未然防止

- ・不登校、いじめ、反社会的行動及び虐待の実態把握と早期解決を目指した指導体制の確立
- ・SCやSSW等の専門スタッフのコーディネートを活用した「チーム学校」としての取組
- ・インターネット利用状況等の実態把握と情報モラル教育の一層の充実

- ・学習用タブレット利用改善への提言や実践紹介

3 各校種、家庭、地域、関係機関や関係団体との連携強化

- ・他校種への理解の深化と効果的な情報の共有
- ・生徒指導主事協議会や学警連定例会等における研修の充実

4 アンケートに基づく生徒手帳の編集、刊行

(生徒指導部会長 中村 徹)

● 広報部会 ●

広報部会は、広報誌「福島県中学校長会広報」を年2回発行し、ホームページの維持・管理を行い、本会及び関係団体等の活動状況や会員に役立つ新しい情報などを提供し、活用促進を呼びかけ、広報活動の充実に努めます。

1 本会及び関係団体等の活動や動向についての情報を提供し、広報活動の充実に努めます。

- (1) 本会の組織・運営、事業内容、活動状況の報告
- (2) 各支会の活動及び、本会活動への会員の意見や感想の紹介
- (3) 関係団体等の活動概要の報告
- (4) 広報紙の発行とホームページの運営、資料の整理

2 関係機関・団体等との連携を深め、情報を提供します。

- (1) 関係機関からの情報把握と会員への早期周知
- (2) 諸活動の報告など

(広報部会長 井上 明浩)

第73回 全日本中学校長会WEB総会報告

第73回全日本中学校長会総会は、5月18日(水)、昨年に引き続きWEB総会として開催されました。

当日は、渡部光毅 会長、福地裕之 事務局長が県校長会事務局から、その他に4名の代議員(阿部央 副会長、芳賀俊幸 副会長、藤田信一 副会長、早川良一 副会長)がそれぞれの学校からZOOMにより参加していただきました。

午前中は開会行事として会長挨拶、文部科学大臣からの祝辞、次に、令和3年度の会務や決算報告、令和4年度の役員改選や今年度の活動方針、予算などについて審議され、決議しました。

その中で冒頭の会長挨拶では、宮澤一則氏から、



3月16日に発生した福島県沖地震について励ましの言葉がありました。

また、役員改選により、新会長の平井邦明氏(東京都台東区立忍岡中学校長)からは、令和の日本型教育を受けて

- ① 持続的かつ効果的な学びの保障
 - ② 学び続ける教員の実現と教職の魅力の向上
 - ③ 全日中新教育ビジョンの更なる周知と推進
- この3つの視点からの話がありました。

他に、今年度開催の北海道支部より、第73回全日本中学校長会研究協議会北海道大会について、新型コロナウイルス対応によりWEBでの開催とする提案があり、承認されました。

午後の部は「当面する初等中等教育の諸課題」と題して文部科学省初等中等教育局長による講演と、初等中等局の各課より、少人数学級の推進について、学校における働き方改革について、生徒指導上の諸課題への対応についてなど、現在、学校における様々な諸課題についての行政説明がありました。

今年度も新型コロナウイルス感染症対策として、一堂に会さずにWEBでの開催になりましたが、今後の活動に向けていくつかの示唆をいただくことができました。

支会情報と特色ある経営

伊 達

伊達支会の活動



伊達支会長 阿部 央
(国見町立県北中学校)

伊達支会は、伊達市、桑折町、国見町の3市町の会員8名で組織しています。今年度は新しい会員として新任1名、転入3名を迎えて

スタートしました。

わずか8名からなる小さな組織ですが、伊達地区の小学校長18名とともに、会員相互の連携を基盤に「伊達はひとつ」を合言葉に、様々な課題の解決に向けて小・中学校長が知恵を出し合って取り組んでいます。

1 伊達地区小・中学校長協議会の活動

基本テーマを「教育改革期における学校組織マネジメントの充実」とし、校長一人一人の力を結集し、各校の教育活動の一層の充実を図るために研修に取り組んでいます。

(1) 定例研修会(年6回)

各組織の運営推進と進捗状況の確認や県校長会の研究テーマをもとにした協議等を行っています。また、前半は小中合同で、後半は校種別で行っています。

(2) 教職員研修講座(年6回)

教員としての資質向上及び管理職を目指す教員の資質向上を目的として、市町教育委員会の協力を得て実施しています。

2 中学校長会の活動

(1) 定例会(年6回)

小・中学校長協議会の定例研修会時の後半に、学校運営上の諸課題や中教研、中体連、県校長会の各部会の活動について情報交換及び協議を行い、8名の中学校長が足並みをそろえ、協力しながら学校運営ができるようにしています。

(2) その他の活動

- 支会内の教育長との教育懇談会

《学校紹介》

部活動縮小化への対応

伊達市立松陽中学校

生徒数減少により、今年度、野球部と女子バスケットボール部が大会必要人数に満たず、規約に基づき廃部の対象となりました。しかし、生徒と保護者から部の存続に対する強い要望もあり、これまでの規約の改定及び対応を以下のように行いました。

- ① 最大限の教育的配慮をした上で縮小化を進めていくことを全教職員で確認
- ② 該当部の活動状況等の把握
- ③ 規約改定案の作成、臨時部活動顧問会開催
- ④ P T A会長との協議
- ⑤ 該当部の保護者・生徒への説明
- ⑥ 全校生徒への説明、学校便りの配付

【改訂のポイント】

- * 合同チームによる新人戦への出場可
- * 次年度、再び大会必要人数を割ってしまった場合は総合大会出場をもって廃部

改訂にあたっては、生徒や保護者の思い、校内体制への影響等から多面的に検討しました。最大の配慮点は、現2年生が次年度3年生まで、同じ部活動を継続できる点です。部活動を通して得られるものは非常に大きいものがあります。仮に部活動の変更となれば、新たな用具購入の費用負担や目標の再設定、人間関係の構築等、様々な課題が生じてくることも考慮し、今回の改訂に至りました。

今回の対応に、生徒と保護者の理解がある程度得られたこと、そして、生徒の安堵感と今後の更なる向上心が増したことが何よりも嬉しいことです。



(校長 渡邊 定行)

石川

石川支会の活動



石川支会長 富岡 信
(石川町立石川中学校)

石川支会は、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町の5町村で成り立っています。令和2年度に、玉川村の2校が統合し、現在、5校5人の会員で組織されています。

県内で最も小さな組織ですが、小さいからこそのスモールメリットを最大限に生かし、“小さいからこそあったかい”会員相互の連携と一体感を基盤に、様々な課題の解決に、5人の会員で知恵を絞りながら対応していきたいと考えています。

次に、本支会の特色ある活動を紹介します。

1 「校長、教頭、主幹教諭合同研修会」

毎年夏休みに、校長会と教頭会が合同で研修を行います。今年度石川地区に主幹教諭1名が配置されましたので、校長、教頭、主幹教諭合わせて11名で研修を行います。今年度は、8月8日(月)に、県中教育事務所石川地区担当管理主事を講師に招き、今日的課題や新たな取組などの説明を受け、課題解決のための演習を行います。管理職が合同で研修を行うことは、管理職としての共通理解を図り、協働体制で学校経営を行うという意識の向上や連帯感の高揚に大きな意義を感じます。また、各町村各1校の中学校という地区独特の特徴から、同一步調や同一見解が求められることも多く、地区中学校の管理職が共通理解を深める場としても本研修会は重要であると考えています。

2 「中学生対象の教育講演会」

この講演会は、地区全町村の中学生を対象に毎年11月に実施しています。校長会が石川青年会議所と連携して例年著名な講師を招聘し、キャリア教育の一環として好評を得ています。昨年度から休日にYouTubeを参観することとし、対象を2年生から全学年へと広げ、保護者も視聴できるようにしました。地域と共に生徒のよりよい成長を願っています。

《学校紹介》

質の高い教育をめざして

古殿町立古殿中学校

GIGAスクール構想のもと、本校においても令和2年度末に生徒1人1台端末が整備され、現在も町教育委員会と連携し、大型提示装置等の増台など、ハード面、ソフト面双方の更なる充実に向けて取り組んでいます。また、本校では令和3年度より3年間、「ふくしま『未来の教室』授業充実事業」実践協力校の指定を受け、授業等におけるタブレットをはじめとするICTの効果的な活用について研究を進めています。教員のICT活用能力には大きな差がありましたので、令和3年度は「まずは使ってみる」ということを目標に、県教育センターの出前講座等を活用し、基本的な内容の研修に励みました。また、ICTに詳しい数名の教員をリーダーとして校内研修を行い、全教員がタブレットを活用した研究授業に取り組みました。そのような中で、教員同士の学び合いが活性化し、ICT活用や授業構想について多くのコミュニケーションが交わされたことは大きな成果の一つであると考えています。

令和4年度は、令和3年度の研究公開授業で活用したアプリ「Google Jamboard」を全教員が使って、生徒の対話的な学びを充実させることを目標として取り組んでいます。これらと併せて、オンライン授業への対応、情報



タブレットを活用して自分の考えを
伝え合う生徒たち

モラル教育の更なる充実、AI型ドリルの効果的な活用等、やらなければならないことは山積みです。しかし、一つ一つ着実に歩を進め、生徒そして我々教職員のICT活用能力や情報活用能力を高めていきたいと思っています。一方で、ICTはあくまでも教育の手段の一つであり、生徒一人一人の学びを丁寧に見取り、適切な支援をするという教育の本質の部分を見失わないよう取り組んでいきたいと思っています。(校長 上野 康生)

南会津

南会津支会情報



南会津支会長 我妻雄比古
(下郷町立下郷中学校)

南会津支会は、下郷町、南会津町、檜枝岐村、只見町の4つの町村からなり、神奈川県とはほぼ同じ面積を有し、7校の中学校長で組織されています。

今年度は、行政機関や域内の中学校より校長2名をお迎えし、全ての学校に地元出身の校長が配置されました。令和6年度の東北地区中学校長会・全日本中学校長会で道徳教育について発表を担当することから、より強いチームワークで研究大会に向けての準備を進めています。コロナ禍の影響により、下記開催の予定変更等がありますが、連携して課題解決にあたっています。

1 南会津地区小・中学校協議会の活動

県校長会の教育関係団体と緊密に連携しながら「南会津がつむぐ南会津ならではの教育」を創造し、郷土を愛し、夢や希望をもってともにたくましく生きる子どもの育成を目指し、活動しています。

(1) 小中学校長協議会(年6回)

前半の協議会は小中学校合同で開催し、後半は校種別に開催しています。へき地小規模校が多いこともあり、学校を取り巻く諸問題に柔軟に対応できるよう、地域や関係機関との連携を図り、学校間での情報交換や連絡を密に取り合っています。中学校長会では、グループラインやリモート会議等を取り入れ、情報共有と課題解決に向けて協議しています。

(2) 教育実務研修会

南会津の教育を担う教員の資質向上と、管理職を目指す教員の資質向上を目的として、全体研修と各方部ごとに支部研修を実施しています。また、教員採用二次試験に向けた学習会を行い教員の養成に努めています。

《学校紹介》

四つ葉のクローバープランによる幼小中の連携

下郷町立下郷中学校

校舎から望む那須連邦の山々、早朝から元気に鳴いているキジやウグイスのさえずり等、下郷町は、大川の溪谷美といで湯の里に育まれた雄大な自然をもつ地域です。本町では、平成17年度より児童生徒の学力向上、学習習慣の確立を目的として「四つ葉のクローバープラン」が組織され、町内3小学校と本校を「希望」「情熱」「愛情」「幸福」をもたらす四つ葉に見立て、町の教育目標である「新しい時代を創る人材の育成」に取り組んでいます。これらの実践内容について紹介します。

1 事業計画

- ・推進会議(年3回)
- ・生徒指導部会・学習部会・全体会(年2回)



R3四つ葉のクローバープラン授業研究会

2 研究主題

- ・確かな学力の向上に向けて
～一人一人を伸ばす授業～

3 研究内容

- ① 町教委・幼小・小小・小中との情報交換等
- ② 町学力向上グランドデザインによる実践
 - ・「学習の約束」「生活のきまり」
 - 「我が町の子どもを育てる7か条」
- ③ 児童生徒の実態把握
 - ・「家庭生活アンケート」「メディアコントロールデー」「NRT・QU分析」
- ④ 授業研究の実践
 - ・「授業スタンダード」「家庭学習スタンダード」を活用した実践研究

さらに今年度よりコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を設置し、学校・家庭・地域との連携・協働により「地域と共にある学校づくり」を推進していきます。更なる子どもたちの資質・能力の向上を目指し、取り組んでいきたいと思っています。(校長 我妻雄比古)

いわき

いわき支会の情報

いわき支会長 塚本 英樹
(いわき市立平第一中学校)



いわき支会は、39校（うち休校1校）38名の会員（うち小学校長兼務2名）で構成されています。昨年度末に4名の方が退職、3名の方が転出され、今年度は新

入会員4名、転入会員1名が加わりました。また、今年度末には大野中学校が閉校となる予定です。コロナ禍で計画通りに教育活動を実施できないという課題はありますが、各学校は小学校との連携を密にしながら、地域や学校の実態に応じた学校運営を行っています。

1 新型コロナウイルス感染拡大防止への対応

校長会では、新型コロナウイルス感染拡大防止等に関する様々な課題や懸案事項について、役員会等で協議し、市教育委員会の指導も受けながら各学校に周知しています。特に、市中体連大会の実施に向けては、感染対策や生徒の参加のあり方等について協議し、感染拡大防止ガイドライン等の見直しを行いながら、その内容や留意事項等の共有を図りました。

2 研修会の実施

6月1日(水)に校長研修会を開催し、県中学校長会研究協議会県北（伊達）大会に向け、支会の研究の方向性及び発表に関する確認などを行いました。3年ぶりに支会の全中学校長が参集する形で実施し、新型コロナウイルスへの対応や各専門部の取組などの情報交換を含め、有意義な研修会となりました。

3 その他

4月に実施を予定していた修学旅行は、新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、全ての学校で延期となりました。今後、延期日程を集約し、実施に向けた課題の整理や留意事項等の確認を行っていききたいと思います。

今後も、コロナ禍における学校運営となりますが、過去2年間の経験を踏まえ、学校間の連携を密にしながら取り組んでいきたいと思

《学校紹介》

望ましい学習集団づくりと個別支援の充実

いわき市立内郷第一中学校

集団の質は個の成長に大きく影響します。認め合い、励まし合える集団を作ることができれば、その中で生徒たちは生きる力を養うことができると考えています。本校では、各教科において「わかる・できる」授業を進めるとともに、生徒同士が関わり合い、学び合う機会を設定した授業づくりを進めています。特に、『未来の教室』授業充実事業の研究指定を受けて2年目となる今年度は、ICT機器を活用した「対話的で深い学び」の創造を目標としています。それぞれの個性や努力を認め合い、思いやりや優しさにふれ合う経験により、共に学ぶことのよさを味わわせるとともに、コミュニケーション力や論理的思考力の育成を図っていきたいと思っています。

一方、本校では、学習障がいなどの発達障がい疑われる生徒が通常学級に多く在籍しています。学年が進むにつれて授業についていくことが難しくなり不登校へと至るケースが多く、進級時に特別支援学級へ移る例も散見されます。こうした状況を改善するために、昨年度、LD通級指導学級の設置を申請しましたが、人員の配置には至りませんでした。そこで、今年度、加配教員を活用して学校独自で通級指導学級を開設しました。合計15名の対象生徒に対して、週に1時間ずつの個別指導を行っています。まだまだ手探りの状態ですが、指導の記録からは、対象の生徒たちがその時間を楽しみにしている様子や目的意識をもって学習課題に取り組んでいる様子がうかがえます。今後、いわき市総合教育センターよりご指導をいただき、より確かな指導体制を確立して個別支援を充実させていきたい考えです。



(校長 小野 匡之)

新 会 員 紹 介

支会	氏 名	校名	支会	氏 名	校名	支会	氏 名	校名
伊 達	渡 邊 定 行	松 陽	東西いわき	金 川 純	西郷二	南会津	室 井 辰 生	舘 岩
伊 達	佐 藤 徳 之	霊 山	東西いわき	児 玉 剛	川 谷	相 馬	志 賀 嘉津美	原町三
安 達	加 藤 広 明	小 浜	北会津	山 内 亮	湊	相 馬	山 田 耕 人	小 高
安 達	遠 藤 康 成	岩 代	耶 麻	鈴 木 雅 彦	北塩原一	いわき	磯 上 貴 美	豊 間
郡 山	齋 藤 高 志	高 瀬	耶 麻	斎 藤 一 範	裏磐梯	いわき	菅 波 惣一郎	湯本二
石 川	酒 井 一 憲	ひらた清風	両 沼	高 橋 哲 郎	会津柳津学園	いわき	金 成 誠	勿来二
田 村	佐 藤 知 巨	滝 根	両 沼	鶴 水 達 也	三 島	いわき	佐 川 綾 子	入遠野
田 村	佐久間 誠	常 葉	両 沼	野 口 幸 哉	金 山	いわき	高 萩 雅 人	田 人
東西いわき	橋 本 美智子	白河南						

新 会 員 の 声

校長という職に就いて

田村市立滝根中学校 佐藤 知巨

本校の所在地である田村市滝根町は、市の最南端にあり、いわき市と小野町に接しています。鍾乳洞の観光地として有名であり、あぶくま鍾乳洞には年間を通して多くの観光客が訪れます。

生徒数は1年生29名、2年生36名、3年生27名の合計92名で、とても素直な生徒たちであり、毎日落ち着いた学校生活を送っています。

校長の職に就いて早くも2ヶ月が経ちましたが、その間コロナ禍の中での授業参観・PTA総会実施の有無、新型コロナウイルス陽性事案への対応、生徒指導事案への対応など、校長として判断を迫られる場面が数多くありました。日々校長としての責任の重さを感じる毎日でした。

自慢になってしまいますが、本校の職員室は職員間の関係が良好で、普段の業務や突然の生徒指導事案にも協力して対応にあたってくれています。教頭と職員の様子について常に情報共有を図っていますが、それぞれの職員が自分の校務分掌に責任をもって取り組む教職員集団です。

期首面談では、教職員の思いや考えをじっくりと聞き取ることができました。校長として捉えた学校の教育課題についても伝えることができ、中身の濃い期首面談を実施することができたと感じています。本校の教職員は一人一人が力のある教員です。この教職員集団が最大限に力を発揮できれば、生徒たちの力をさらに引き出し、伸ばすことができるはずです。信頼できる教職員とともに目指す生徒像をしっかりと共有しながら、私自身の学校経営を行っていきたいと思います。年度末の生徒たちの成長した姿が楽しみです。

新任校長研修会で学んだこと

南相馬市立小高中学校 山田 耕人

この4月、南相馬市立小高中学校に着任いたしました山田耕人（たかひと）と申します。昨年度までの3年間は南相馬市教育委員会学校教育課指導主事として、特に3年目は学力向上担当として、市内各校の校長先生方には大変お世話になりました。

3年ぶりの学校現場は、想像以上に毎日が目まぐるしく、新型コロナウイルス感染症拡大防止策一つを取りましても、古いファイルをあれやこれやと引っ張り回しながら、対応に奔走する毎日を過ごしております。また、本校学校運営ビジョンの一丁目一番地に位置付けておりました学力向上に向けた手立ても、日々、献身的な指導や支援にあたる先生方を前に、なかなか決め手となる一手も思いつかず、我が身の力不足に反省しきりです。

そのような中ではありますが、本市では魅力ある教育活動を展開し、子供たちが未来社会を切り開くための資質・能力を育成することにより、小高区の復興の加速化を図るとともに、グローバル化に対応した外国語教育等の推進に力を入れております。これを受け、本校では英語担当教師による小学校外国語科等の乗り入れ授業や、この4月に入学した中学1年生からオールイングリッシュ英語授業を導入するなど、魅力ある学校づくりに取り組んでおります。

新任校長研修会の折、福島県教育庁石幡義務教育課長様からのご講話でありました「自分が配置された意味」を考え、自分がなりたい校長ではなく、なるべき校長になるため、精進してまいりたいと思います。諸先輩方のご指導、ご鞭撻をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

2011年3月11日14時46分。大熊中学校職員室では、第38回卒業証書授与式の感動が続いていました。遅い昼食を済ませ、卒業アルバムを見ながら3年間を振り返る職員、卒業生からのメッセージを読み返し微笑む職員、式場の後片付けに入ろうと着替えた職員などなど。次の瞬間、未だかつて経験したことのない震災と長期避難生活が襲いかかって来ることになります。

私は、当時双葉郡大熊中学校に教頭として勤務していました。福島第一原子力発電所から4km弱に位置する学校です。

建物や地面に大きなひび割れが起こったり、高架水槽の配管が壊れ屋上から大量の水が落ちてきたり、地鳴りとともに大きな余震が続いたりする一方で、町の防災無線は反響がひどく聞き取れず、外の情報は入ってきません。夕方以降、車載テレビから、東北や相馬・いわき市など広範囲の沿岸に巨大津波が押し寄せ、大きな被害が出ていることを知りますが、一番近い原発がどうなっているかなど頭の片隅にもありませんでした。

また、震災前の私は理科の授業などで、原発の安全神話を生徒に得々として語っていました。双葉郡の沿岸には3m以上の津波はこない。原子炉は何重もの分厚いコンクリートの壁で覆われ、放射性物質が漏れ出すことはない。遠足や職場体験では、生徒と原子炉格納容器の真上に立ち、燃料棒が保管されているプールも見学しました。そんな私は、避難所対応と明日からの復旧作業の段取りのことばかり考えていました。

翌12日6時頃、突然、住民が続々と校庭に入ってきました。「原発から10km圏内に避難指示が出た」「バスが迎えにくるので、町外に避難するように」とのことでした。7時頃か、茨城県内の社名が書かれているバスが校庭に十数台入ってきました。『念のため』の一時避難であると伝えられ、着の身着のままでバスに分乗し、行き先も告げられず西に向かいました。私も最後のバスに乗ったの

ですが、それでもことの重大さを理解できませんでした。しかし、運転手とした交わした次の会話で、非常事態であることに気づかされました。「何時に茨城を出て来たんですか?」「政府の要請で、昨夜10時頃招集がかかり、11時に出発し、東北道経由でここに来た。バスは50台以上で、住民を避難させるよう指示を受けた。」

そして避難所で見たテレビ中継。3月12日15時36分、1号機原子炉建屋が水素爆発を起こし大破。私の中の安全神話が完全に崩れた瞬間でした。

11年以上経った今でも、大熊町や双葉町の小中学校は、避難先の仮校舎で教育活動が続いています。帰還した学校でも生徒数の激減により統廃合が進み、双葉郡内では、小学校は17校→7校、中学校は11校→9校(義務教育学校を含む)、高校は5校→1校になってしまいました。当時の大熊中は解体され、町の新居住区の一部に校舎が建設中です。震災後お世話になり続けた会津若松市を離れ、義務教育学校「学び舎ゆめの森」として来年4月に帰還する予定です。

新型コロナウイルス感染症対応も含め「想定外」や「先行き不透明」といった場面に出会うことが増えていくと思います。校長間の連携・情報共有を大切にして、総力を結集し、難局を打開していければと思います。

最後になりましたが、避難・学校再開直後から全国・全世界から温かい支援を受け、今なお継続して活動をお願いしている団体や個人の方も多くいらっしゃり、感謝に堪えません。さらに、区域外就学等で児童・生徒、保護者を温かく受け入れてくださり、励まし、ご指導ご支援をいただいている県内各支会の校長先生始め諸先生方に、この場をお借りして、心より感謝と御礼を申し上げます。

ありがとうございます。

随想



福島県中学校長会副会長
早川 良一
(檜葉町立檜葉中学校長)

「想定外」を総力を結集して
乗り越えていきましょう

(一財)福島県教育会館 事業ご案内

福島県教育会館の下記事業につきまして、ご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。

●夏休みの友 ●福島県立高校入試問題集 ●福島県書きぞめ展 ●教育関係者名簿 ◆大ホール・貸し会議室(教育関係者は半額)
福島市上浜町10-38 office@kyouikuikaikan.jp TEL 024-523-0206 FAX 024-523-0208



福島県中学校長会ホームページはこちらのQRコードから